

バイオエネ君で生じる燃焼ガス中のCO₂をイチゴ栽培に利用する 実証に関する報道関係者向け取材会の実施について

町田市では、イオンアグリ創造株式会社と株式会社タクマとともに、2023年11月から2026年までの計画で、町田市バイオエネルギーセンターのごみ処理施設（ごみ焼却施設）の排ガスに含まれるCO₂を使ってイチゴ栽培に利用する実証を実施しています。

実証開始から半年が経過し、イチゴの収穫を迎えたため、5月21日に株式会社タクマ、イオンアグリ創造株式会社が主催し、報道関係者向け取材会を開催しました。

1 取材会の内容

第一部 各代表からのあいさつ及び今回の取組みについての概要説明

第二部 町田市バイオエネルギーセンターからのCO₂供給システム（調整装置）
及び実証ハウスの見学

2 出席者

試験実施者 株式会社タクマ、イオンアグリ創造株式会社、町田市

報道関係者 9名 フジテレビ、読売新聞、日本経済新聞、東京新聞、
相模原町田経済新聞、タウンニュース、武相新聞

3 実証試験の実施体制と役割

株式会社タクマ : CO₂供給装置及びシステムの開発・評価、育成評価
安全評価の実施

イオンアグリ創造株式会社 : タクマ協力企業として施設園芸のコンサルティング、農
作物等の安全評価試験の設計評価

町田市 : 実証フィールド及びCO₂等の資源の提供

4 主な説明内容（株式会社タクマ、イオンアグリ創造株式会社から説明）

- ごみ処理施設で生じる燃焼ガス中の排ガスを利用した実証は国内初めての取組み。
本試験がモデルケースとなり、ゼロカーボンシティ実現のひとつのツールになる
と考えている
- 従来の育成方法のイチゴと比較して、積算収穫量は 10～15%程度増えている。
糖度は今後、評価していく
- 経済性・安全性を評価したうえで、2026年初頭にはイチゴを市場に流通させたい
- 2025年9月からの試験では、バイオガス化施設で生ごみを発酵して発生するメタ
ンを燃料とした、ガスエンジン発電機から生じる燃焼ガスを利用する
- ごみ処理施設から排出するCO₂のエネルギー循環を実現し、子供たちによい未来
を残したい

5 報道実績

- 5月21日 フジテレビ系ニュース FNNプライムオンライン（1分程度）
5月24日 東京新聞朝刊 「ごみ焼却のCO₂でイチゴ栽培を！」（700字程度）
6月 3日 読売新聞朝刊 「温室へCO₂イチゴ育つ」（900字程度）

ほか

6 今後のスケジュール

- | | |
|-----------|---|
| 2024年10月～ | 第2期栽培開始（焼却排ガス由来のCO ₂ ） |
| 2025年 9月～ | 第3期栽培開始（バイオガス発電機排ガス由来のCO ₂ ） |
| 2026年 4月～ | イチゴの安全性評価実施 |
| 2026年 6月 | 第3期栽培終了、装置撤去開始 |
| 2026年12月 | 実証終了 |



温室設備



温室内